

7 - 26 能登半島地震緊急調査報告 Survey results of the Noto Hanto earthquake

産業技術総合研究所
Geological Survey of Japan, AIST

2007年3月25日に発生した能登半島地震震源域で、高分解能マルチチャンネル音波探査(12ch)を実施し、完新統に変形を与える活断層を確認した。位置は、片川ほか(2005)や産業技術総合研究所によって報告されている断層位置にほぼ一致し、余震域の北西縁に沿って連続している。また、海上保安庁から今年の5月に報告された海底の隆起部にも一致する。1988年に産総研が取得したデータと比較し、2007年の地震で海底にわずかな変動が生じたと推定した。さらに完新統に繰り返し活動していたことも確認できた。本調査は振興調整費「平成19年(2007年)能登半島地震に関する緊急調査研究」の一環として実施した。

(岡村行信, 村上文敏, 井上卓彦)

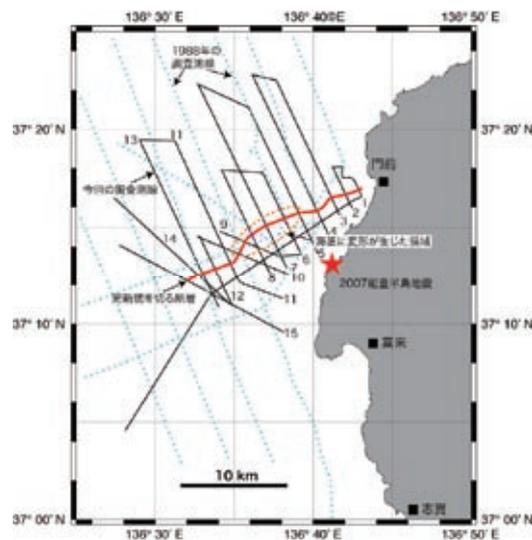


図1 調査測線と活断層(赤線), 海底の変動域
Fig. 1 Active fault (red) and seafloor uplifted area (orange) identified by seismic survey lines (black).

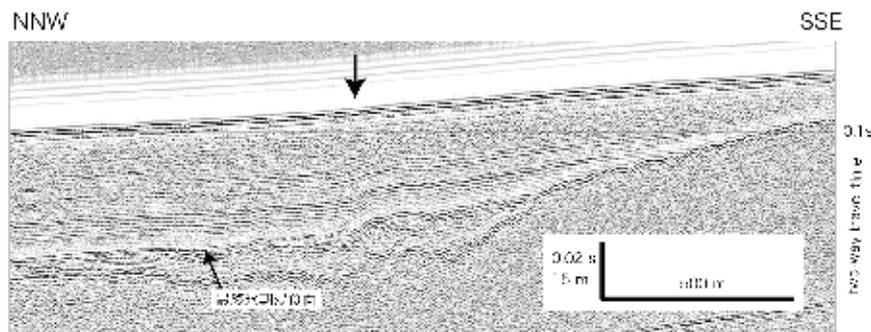


図2 LINE5の重合断面。矢印の地層の撓曲を断層とした。
Fig. 2 Stacked seismic section of Line 5. The flexure shown by an arrow is determined as a fault.

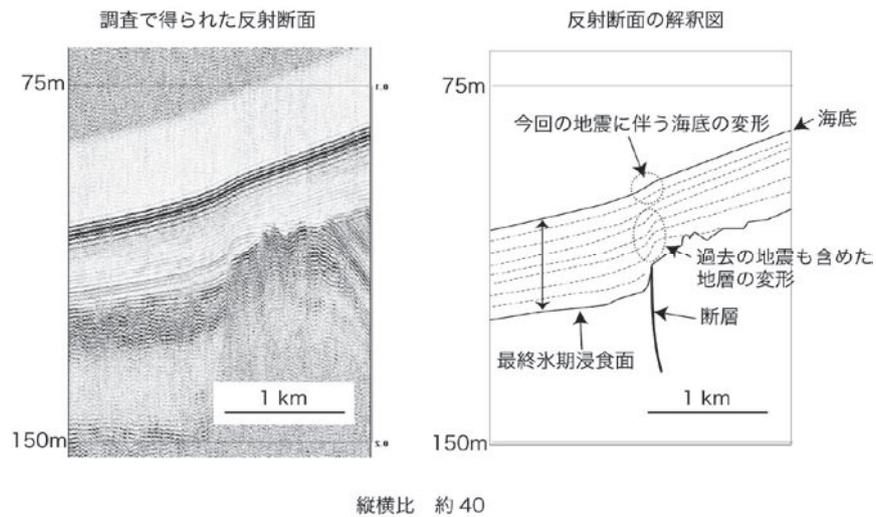


図3 LINE8上で観察される海底の傾斜の変化
 Fig.3 Seafloor deformation observed along Line 8.